

グルジア政治・経済 主な出来事

【2013年8月19日～8月25日】

[当地報道をもとに作成]

平成25年8月27日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

▼メドヴェージェフ露首相の発言(19日)

・北コーカサス青年フォーラム「マシユク 2013」に出席した「メ」露首相は、アブハジアと南オセチアに関して、「我々の選択を撤回することはない。さもなくば、アブハジアおよび南オセチアの民族は哀れな境遇に陥り、消滅してしまうかもしれない」「露とアブハジア、露と南オセチアの関係は完全に対等であり、その関係は両国を自由に発展させ、誰にも従属させることはない」と話した。

【アブハジア】

▼ガグラとイタリア・サツロクが友好・協力関係を結ぶ(24日)

・シチリア南部サツロクで、ガグラ市「当局」代表者とサツロク町長が友好・協力関係についての議定書に署名。

▼アंकワブ「大統領」とプーチン露大統領がアブハジア・ビチヴィンタで会談(25日)

・露政府によれば、「二国間の協力に係る幅広い問題について」話し合われた。

・グルジア外務省は、プーチン露大統領のアブハジア訪問が「グルジアの領土一体性と主権を侵害する」挑発行為であるとして、露政府に抗議書簡を送付。

・26日、駐グルジア EU 代表部は、同訪問が「グルジアの主権と領土一体性の原則に反する」として懸念を表明。

【南オセチア】

▼ティビロフ「大統領」がモスクワでイワノフ露大統領府事務局長、フロポニン北コーカサス連邦管区露大統領全権代表らと会談(22日)

・南オセチアの復興支援、社会・経済分野の発展、ガス施設の整備、銀行部門および法制度の改善に係る協力プログラムなど幅広い問題について議論。

▼ズボフ露内務次官が南オセチアを訪問(23日)

・ティビロフ「大統領」およびラヴォエフ「内務大臣」と会談。ロシアと南オセチアの法執行機関の協力が活発に進展していると評価。南オセチア側は、ロシアからの経済支援の資金を横領し、現在はロシアに滞在しているとされる人々の捜査について協力を依頼。

▼シェフチュク・沿ドニエストル「大統領」が南オセチアを訪問(25日-26日)

・26日のロシアによる南オセチアの承認から5周年の記念式典に出席するため。

・ティビロフ「大統領」と会談し、1994年に南オセチアと沿ドニエストルの間で交わされた「友好関係と協力に

ついての合意」の更新を約束。

2. 外 政

▼グルジア軍部隊がアフガニスタンへ出発(20日)

・アフガニスタンでの NATO の ISAF ミッションに参加するため、グルジア軍第1歩兵旅団第13歩兵大隊の平和維持部隊が出発。

▼政府が米ロビー企業Patton Boggsとの契約を延長(21日)

・8月で終了する6カ月間の契約を延長。Patton Boggs 社は、米政府・議会との連絡や米国内でのグルジアの PR、米国の政治家・市民リーダーの間でグルジアへの支持を増やすことなどを請け負う。契約金は月9万ドルから11万ドルに。

▼ヘクマルク欧州人民党副党首が与党連合「グルジアの夢」を批判する書簡を発表(21日)

・前政権にも問題はあったが、汚職との戦いには成功した。イヴァニシヴィリ首相は前政権を批判するが、サーカシヴィリ大統領のもとで行なわれた改革によって実現した民主的な選挙で政権を得たことは否定できない。

・現政府は司法機関を利用して野党の代表者を脅し、逮捕しており、前政権の成果を危うくしている。

▼グルジア正教会総主教イリア2世がイランのイスラム聖職者の代表団と会談(20日)

・イリア2世はアヤトラ・シャフリスタン師に、イランに暮らすグルジア人のキリスト教への改宗を罰しないよう求めた。

▼タジク人ジャーナリストの拘束(20日)

・国際組織「国境なき記者団」は、20日、チェコからグルジアに到着したタジク人ジャーナリスト、アトヴロイェフ氏をグルジア警察が空港で逮捕したとして、「ア」氏を直ちに解放するようグルジア政府に呼びかける声明を発表。「ア」氏はタジキスタン政府に対する厳しい批判で知られている。

・グルジア内務省によれば、インターポールに手配されているために「ア」氏を拘束したが、ドイツ政府から政治難民に認定されていることが判明したため、解放し、ミュンヘンに行かされた。

▼アラサニア国防大臣が訪米(21日-28日)

・21日、国家警備隊事務局を訪問し、グラス事務局長と会談。2010年以降、毎年、両国の国家警備隊は自然災害を想定した共同訓練を実施している。

・同日、ペンタゴンでヘーゲル米国防長官と会談。両国の防衛協力の拡大を約束。ヘーゲル米国防長官は ISAF ミ

ッションにおけるグルジアの貢献に感謝し、グルジアにおける軍の文民統制の強化を称賛。グルジア・ロシア関係についても触れた。

・同日、ジョンズ・ホプキンス大学を訪問。中央アジア・コーカサス研究所のフォーラムで、グルジア国防省の改革、防衛能力の強化、コーカサス地域の安全保障、防衛分野における米・グルジアの協力などについて講演。

▼リビア外務省の代表団がグルジアを訪問(22日ー23日)

・リビア外務省の初めての訪問。ジャラガニア外務次官との会談で、両国の関係を発展させる意思を表明。会談では二国間・多国間関係の見通し、高官の相互訪問、両国の民間セクターの交流の強化などについて話し合った。

・代表団はパンジキゼ外務大臣とも会談。「パ」外務大臣は、リビアとの関係の強化は、二国間関係のみならずアラブ圏全体との関係の観点から重要であると述べた。

3. 内 政

▼TV局「Channel 9」が放送を停止(19日)

・「Channel 9」は1998年設立。2003年末に閉鎖されたが、2012年4月に放送を再開。現在、イヴァニシヴィリ首相夫人が株式の80%を所有。

・19日、「イ」首相は、「昨年10月の選挙以降、テレビ局の売却先を探してきたが見つからなかった」として9月1日に放送を停止すると発表。しかし、放送は19日の夜のニュースの後に停止した。

・サーカシヴィリ大統領は「メディアが減ることは良くないことだ」とした上で、「イ」首相は昨年の議会選挙前に被収容者の虐待映像を公開するためにChannel 9をつかって、もう用がなくなったのだとコメント。

・22日、イヴァニシヴィリ首相は、19日に放送が停止されたことについて「Channel 9」の運営を批判。「イ」首相の決定に従業員が批判していることは残念だとして、「過去10カ月の間に従業員に1千万ドルを支払った」「これまで局の運営について指示をしたことはない」と発言。

・売却先について「もし真剣な提案があれば考慮するが、これまでそのような提案は受けていない」と話した。「イ」首相によれば、価格は市場価値の3分の1。

▼1月～7月の個人から政党への献金額(19日)

・国家監査室によれば、2013年1月から7月までの間に、「グルジアの夢」(GD)が個人から受けた献金の総額は185万ラリ。うち、イヴァニシヴィリ首相の「グルジアの夢・民主グルジア」党への献金が157万ラリ。

・「統一国民運動」(UNM)は2件16,800ラリ相当の物品の寄付を受けたことを報告しているのみ。昨年UNMはGDの約4.4倍の2,080万ラリの献金を受けた。

▼サーカシヴィリ大統領が恩赦による犯罪歴の抹消を発表、内務省発表の犯罪統計を批判(19日)

・「社会の刷新と再生に向けた措置」として、過去に犯罪

を犯した者の犯罪歴を抹消する恩赦を発表。計画殺人、人身売買、拷問、未成年者に対する性犯罪などの重大な犯罪を犯した者を除く。該当者の申請は「サ」大統領の任期の終了までに審査される。「サ」大統領は、現政権の行った大規模な恩赦と異なり、犯罪歴の抹消は犯罪件数を増加させないことを強調。

・内務省が発表した犯罪統計で、2013年1月～7月の犯罪件数が前年より大きく減少した一方で、検挙率が大きく上がったことについて、「内務省の犯罪統計は信頼できない」「(統計を都合よく操作する)シェワルナゼ時代の習慣が復活した」と批判。

▼ブルームバーグによるイヴァニシヴィリ首相のインタビュー(23日)

・「私が想像するように全てがうまくいけば、グルジアは3年か4年以内にNATOとEUに加盟できるだろう」「ロシアとの関係の修復はグルジアの経済と政治的安定にとって非常に重要だ」と発言。

・年内に首相を辞任することを確認。「政府ではなく、社会こそが我々の問題である。社会は政治文化に欠けている」として社会活動を行なう意図を表明。

▼ブルジュナゼ大統領選候補の発言(23日)

・ブルジュナゼ氏が党首を務める「民主運動・統一グルジア党」(DMUG)は、与党連合「グルジアの夢」(GD)や野党「統一国民運動」(UNM)から「数百名」がDMUGに合流したと主張。これに対しGD側は、ごく僅かな人数の移籍を誇張する「汚いPR作戦」だと批判。

・23日、「ブ」氏はカヘティ地方の地域TV放送で、「政府は親露的と見なされるのを恐れてロシアとハイレベルの交渉を避けているが、私はプーチン露首相とも会談する」「私はロシアとの関係を修復できる」と主張。

・NATO加盟を目指す政府の方針について、「我々はアブハジアと南オセチアをあきらめてNATOに加盟するか、NATO加盟をあきらめるかどちらかである」と発言。

・「犯罪的な勢力」であるUNMとの政治的な共存を追求しているとして政府を批判。

4. 経 済

▼2003年1月～7月のグルジアの銀行セクター総利益(25日)

・国立銀行によれば、1月～7月のグルジアの銀行セクターの総利益は192.26百万ラリ(前年同期比86.6%増)。

・8月1日時点で、銀行債権の総額は9.237十億ラリ(1年前8.55十億ラリ)。うち不良債権243.9百万ラリ(銀行債権総額の2.6%)。

・現在グルジアには商業銀行が20行あり、8月1日時点での総資産額は15.1十億ラリ(前年同期比7%増)。